

品種の紹介

暑さと害虫に強い多収水稻新品種「つやきらり」の育成

【はじめに】

西日本では、水稻の良質・安定生産のため、暑さ（高温登熟）と害虫に強い水稻品種の育成が求められています。農研機構九州沖縄農業研究センターは、高温条件下においても玄米外観品質が優れ、害虫のトビイロウンカに対する抵抗性に優れている新水稻品種「つやきらり」（平成30年3月30日に品種登録出願）を育成しました。



写真1 「つやきらり」の草姿
「きぬむすめ」（左の2列）と「つやきらり」（右の3列）。



写真2 トビイロウンカ抵抗性試験
弱い系統（左上半分）と「つやきらり」（右下半分）。

【品種の特性】

「つやきらり」の熟期は、代表的な良食味品種である水稻品種「きぬむすめ」より少し遅い熟期の“やや早”です（表1、写真1）。稈長は「きぬむすめ」と同程度で、穂長が約1cm長く、耐倒伏性は「きぬむすめ」より優れ、倒れにくい品種です。玄米収量（玄米重）は「きぬむすめ」より約7%多収で、玄米の千粒重は「きぬむすめ」より2g程度重いです。高温登熟耐性は“やや強”で「きぬむすめ」より玄米外観品質が優れ、害虫のトビイロウンカに対しても“中”程度の抵抗性を持っています（写真2）。炊飯米の食味は、「きぬむすめ」に近い良食味です。炊飯米の表面が少し硬い特徴があり、寿司米にも適しています（写真3）。

【おわりに】

「つやきらり」は、多収で高温登熟耐性が優れ、トビイロウンカに強いことから安定生産が期待できます。栽培適地は東海以西です。現在、福岡県、熊本県、島根県、福井県等で試作が行われています。また、外食・中食産業用において、炊飯米が硬めという特徴を活かした用途での利用が期待できます。

【水田作研究領域 竹内善信】



写真3 「つやきらり」のにぎり寿司

表1. 「つやきらり」の栽培特性

品種名	出穂期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (1無倒伏-5完全倒伏)	玄米重 (kg/a)	同左比率 (%)	千粒重 (g)	食味 (5優-5劣)	高温登熟耐性	トビイロウンカ抵抗性
標肥栽培 (2009~2017年)											
つやきらり	8.23	80	18.8	313	0.0	56.3	107	23.3	-0.14	やや強	中
きぬむすめ	8.22	80	18.0	349	0.3	52.7	100	21.2	-0.11	中	不明

移植日は、6月15日~23日。標肥栽培のチッソ成分；0.80kg/a。食味評価は、2009~2013年は「コシヒカリ」基準、2014~2017年は「ヒノヒカリ」基準で実施。農研機構九州沖縄農業研究センター筑後・久留米研究拠点（筑後）にて栽培。